

## 女性研究者研究活動支援事業

(実施期間：平成 23～25 年度)

実施機関：信州大学（総括責任者：山沢 清人）

### プロジェクトの概要

(1) 支援室の体制と具体的な活動内容

女性研究者の採用拡大・定着促進及び仕事と生活の調和の実現に向けて「①新規設置する支援室は、室長、室員、コーディネーター、支援員により構成し女性研究者支援の司令塔の役割を担う。室員等を中心に相談体制を確立する。②男女を問わずライフイベントによる研究中断を回避するために研究補助者を配置する。③ユキビタス環境の構築による研究支援の実現と柔軟な勤務制度を導入する。④女性研究者の積極的登用を促し学内の意識啓発のための講演会等を開催する。⑤学生・大学院生のキャリア形成支援により女性研究者の裾野拡大を図る。」に取り組む。

(2) 研究を支援する者の配置計画

研究活動を支援する者は当該研究者が選定した者または支援室の支援員を配置する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果 (システム改革)	実施体制	実施期間終了 後の取組の継続性・発展性
S	s	s	a	a	s

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

部局が県内の複数キャンパスに分散する中、学長のリーダーシップの下、部局の連携を密にして機関全体としての意識改革を進め、部局毎に女性教員採用数値目標を設定し、女性限定教員公募等のポジティブ・アクションを実施することにより採用を積極的に進めた。また、学内保育施設の新設等により女性研究者を取り巻く研究環境を整備し、ライフイベントを理由とする女性研究者の離職を抑制し、所期の目標をすべて達成したことは高く評価できる。今後は、一層の意識改革により自然科学系分野における上位職女性教員を増加させることを期待する。

・ **目標達成度**：部局毎に数値目標を設定し、積極的に女性限定教員公募等を実施することにより女性教員の採用を進め、また、学内保育施設の新設等により研究環境を整備することによりライフイベントを理由とする女性研究者の離職を抑制し、所期の目標をすべて達成したことは高く評価できる。

・ **取組**：教職員及び大学院生を対象とした大規模アンケート調査により女性研究者のニーズを把握するのみならず、シンポジウム、懇話会等あらゆる機会に聞き取り調査を行い、学内保育施設の新設、研究補助者制度の導入といった取組に反映させたことは高く評価できる。

・**取組の成果（システム改革）**：部局毎の女性教員増員目標数の設定、女性限定教員公募の実施、学長裁量人件費による女性教員の昇任及び採用の特別措置等のポジティブ・アクションにより、機関全体としての意識改革が進み、女性教員割合の向上や支援システムの構築に繋がったことは評価できる。

・**実施体制**：学長のリーダーシップの下、役員や部局長の協力を得て、部局毎に女性教員採用数値目標を設定するなど機関全体として事業に取り組んだことは評価できる。2つの支援室分室の設置は、県内に分散する複数キャンパスにおいて事業を展開する上で有効に機能した。

・**実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：女性研究者支援室を男女共同参画推進室に発展的に改組し、十分な予算を確保し、学内保育園の運営をはじめこれまでの取組をすべて継続しており高く評価できる。今後は一層の意識改革により、自然科学系分野の上位職階女性教員数の増加、執行部への女性の登用を期待する。